

## 数字で見るワイン産業（2017年版）

### スペインについて

スペインは千年を超える、食とワインによって築き上げられた歴史を持つ国である。ここでは、最新のデータを簡潔に示すことで、スペインの 17 の地域と 2 つの自治都市を通じて、スペインの持つ豊かな文化、観光スポット、食品生産、そして食文化の多様性を感じていただきたい。

スペインは世界でも有数のワイン生産国である。栽培面積では世界 1 位にランキングされる。2016/2017 年度のワインとぶどう果実の生産は第三位（イタリアおよびフランスに続いて）、また、2016 年の輸出総量でも世界最大の輸出国であるが、価格で比較すると第三位となる。

スペインにおけるワイン産業は、経済的観点からだけでなく、社会の中で果たす役割、環境保護の観点からみても重要なものである。また、海外におけるスペインのイメージを代表するものとして、この産業の果たす役割は大きい。

国別ぶどう栽培面積 (単位:千 ha)							
出典: O.I.V 2017 年統計データ							
	2012	2013	2014	2015	2016	構成比率 %	2016/2012 変動 単位:千 ha
スペイン	969	973	975	974	975	12.97%	6
フランス	792	793	789	785	785	10.44%	-7
イタリア	713	705	690	682	690	9.18%	-22
ポルトガル	231	224	219	199	195	2.53%	-41
ルーマニア	192	192	192	191	191	2.54%	-1
米国	430	449	448	443	443	5.89%	13
トルコ	497	504	502	497	480	6.39%	-17
中国	706	757	796	830	847	11.27%	141
アルゼンチン	222	224	226	225	224	2.98%	2
チリ	206	208	213	214	214	2.85%	8
南アフリカ	135	133	132	130	130	1.73%	-5
オーストラリア	162	157	154	149	148	1.98%	-14
イラン	226	223	223	223	223	-2.97%	-3
モルドバ	142	137	140	140	140	1.86%	-2
ウズベキスタン	121	122	127	127	127	1.69%	6
インド	120	119	120	120	120	1.60%	0
ギリシア	110	110	110	107	105	1.40%	-5
ドイツ	102	102	102	103	102	1.36%	0
その他の世界各国	1,387	1,391	1,375	1,376	1,382	18.39%	-5
<b>全世界合計</b>	<b>7,468</b>	<b>7,523</b>	<b>7,533</b>	<b>7,515</b>	<b>7,516</b>	<b>100.00%</b>	<b>53</b>

\* 10 万 ha 以上のぶどう栽培面積を有する国

## 1. 世界市場の状況

### ぶどう栽培面積

国際ぶどう・ワイン機構 - O.I.V(International Organization of Wine and Vine)のデータによると、2016年の世界のぶどう栽培面積は2015年と比較して大きな変動はなく、7,516,000haとされる。これはワイン醸造用、生食用、干しぶどう等の生産用あるいは生産予定用のぶどう全部を含めた栽培面積である。

EUのワインの生産能力調整促進政策が終了してより、EUのぶどう栽培面積の減少に歯止めがかかった。2011年から2012年にかけて、EUのぶどう栽培面積は54,000ha減少したが、2013年から2014年では、19,000haの減少に留まっている。2015年のEU域内のぶどう栽培面積は3,400,000haで、2014年から26,000haの減少。EU域外のぶどう栽培面積に関しては若干の伸びを示し、3,500,000haに達している。主要な牽引役は中国で(2016年に+17,000ha)、中国はスペインに次ぐ、世界第2位のぶどう栽培面積を持つ国となった。

### 世界的な生産状況

国際ぶどう・ワイン機構 - O.I.Vは、2017年の世界のワイン生産量を2億4,670万hL(ヘクトリットル)と推計している(マスト《ぶどうの搾汁》及びジュースを除く)。これは2016年と比較して、8%の減少予測となる。

世界第1位のワイン生産国はイタリアで3,930万hL(-23%)、ついで、フランスが3,670万hL(-19%)、スペインは3,350万hL(-15%)となる。

EU域外では、アメリカの生産量が2,330万hLで、生産量が多いが2013年の生産レベルには達していない。南半球ではチリのワイン生産が減少し、アルゼンチン、南アフリカは増産に転じた。すなわち、2017年、アルゼンチンは生産量1,180万hLで4.8%を占め、チリは950万hL(3.9%)と昨年より減少した。最後に、オセアニア諸国では、2017年のオーストラリアのワイン生産量は1,390万hLとなる見込み。

国別ワイン生産量 (単位:千 hL)					
出典: O.I.V のデータをもとに OeMv が作成					
	2014	2015	2016	2017 暫定	構成比率
イタリア	44,229	50,000	50,900	39,300	15.9%
フランス	46,904	47,500	43,500	36,700	14.9%
スペイン	39,500	37,700	39,300	33,500	13.6%
その他の EU 諸国	31,243	38,254	31,900	31,200	12.6%
<b>EU 合計</b>	<b>166,232</b>	<b>165,800</b>	<b>165,600</b>	<b>140,700</b>	<b>57.0%</b>
米国	22,020	22,140	23,900	23,300	9.4%
アルゼンチン	15,197	13,358	9,400	11,800	4.8%
チリ	10,500	12,870	10,100	9,500	3.9%
オーストラリア	12,020	12,000	13,000	13,900	5.6%
<b>非 EU 合計</b>	<b>104,002</b>	<b>104,565</b>	<b>101,400</b>	<b>101,600</b>	<b>43.0%</b>
<b>世界合計</b>	<b>270,234</b>	<b>274,400</b>	<b>267,000</b>	<b>246,700</b>	<b>100.0%</b>

## EUにおける生産状況

O.I.V.の発表したデータによると、EU 域内でのワイン生産量は1億4,070万 hLで、2016/2017 年期と比較して-14.4%の減少が予想される。EU 域外でのワイン生産量は約1億160万 hLで、前年(1億140万 hL)に近似したものであった。

2016年9月時点の欧州委員会の予測データによれば、2017/2018年度にEU域内で生産されるワインとマストの量は1億4,510万 hLで、2016/17年度と比較して14.4%の減少を意味する。

生産量のうちワイン醸造用に使われた量は1億5,930万 hLと推定され、このうち、6,750万 hLがDOPワイン(原産地呼称保護 (Denominación de Origen Protegida 42.4%)、3,420万 hLがIGPワイン(地理的表示保護 Indicación Geográfica Protegida 22.1%)、710万 hLがDOP、IGPのない品種名記載ワイン(4.5%)、5,050万 hLがその他のワイン(31.7%)の醸造用と推定される。

ワインの種類別に見ると、DOPワインの生産国1位はフランスで、1,970万 hL。次いでイタリアの1,610万 hL、スペインの生産量は1,480万 hLである。IGPワインの生産量では、イタリアが1,370万 hLでトップを占め、フランスが約1,250万 hL、スペインは390万 hLに減少した。DOP、IGPが付かない単独品種ワインでは、スペインがランクの一位で600万 hL、それにイタリア(50万 hL)、ブルガリア(30万 hL)とが続く。上記に分類されないその他のワインについては、イタリアの生産量が最も多く1,850万 hL、スペインが1,310万 hL、フランスが1,070万 hLといった順番で並ぶ。

国	2017/18 生産量 (単位:千 hL)	全体に占める 割合	2016/17 年 比	2012-18 年 5シーズン 平均比
イタリア	39,300	27.9%	-23%	-19%
フランス	36,700	26.1%	-19%	-17%
スペイン	33,500	23.8%	-15%	-15%
ドイツ	8,100	5.8%	-10%	-11%
ポルトガル	6,600	4.7%	+10%	+4%
その他の EU 国	16,500	11.7%		
<b>EU 合計</b>	<b>140,700</b>	<b>100.0%</b>	<b>-14.4%</b>	<b>-14%</b>

## ワイン消費量

O.I.V.が2017年4月に発表した最新のデータによると、世界のワイン消費量は、2008年の経済危機以降、2016年に最高の消費量を記録し、約2億4,200万 hLに達した。2015年に比べると2016年の消費量は微増した。国別の消費量をみると、2016年の米国の消費量は3,180万 hLで、世界最大の消費国としての地位を維持(2015年比で+2.5%)。中国も、2016年に消費を増加させた(+6.9%、1,730万 hL)。中国以外で、2016年に消費が拡大した国はイタリア(+5.3%)、イギリス(+1.4%)、オーストラリア(+2.4%)、カナダと南アフリカ(+3.1%)、ベルギー(+1.1%)、オーストリア(+2%)

とチリ(+4.8%)。逆に消費が減少した国は、フランス(-0.7%)、ドイツ(-1.8%)、アルゼンチン(-8.3%)、ルーマニア(-4.5%)、オランダ(-2.3%)、ブラジル(-12%)、スウェーデン(-3.3%)。

## 2. スペインにおけるワイン産業

スペインにおけるワイン産業は重要な地位を占める。それは単に、この産業の生み出す経済価値だけによるのではなく、この産業に従事する人口、また環境保全の意味からも、この産業の果たす役割は大きい。

### ぶどう栽培面積

O.I.V.のデータによると、2016年のスペインのぶどう栽培面積は97万5,000haで(97.4%がワイン醸造用、2%が生食用、0.3%が干しぶどう用、0.3%が苗床用)、EU及び世界で不動の最大面積を有している。EU域内の全ぶどう栽培面積のほぼ30%を占め、次いでフランスが23%、イタリアが22%と続く。世界の栽培面積では13.4%を占める。スペインのワイン製造の歴史は古く、ローマ時代にまでさかのぼるが、大規模な輸出産業として普及したのは近年になってである。

### スペインにおけるワイン生産量

スペインにおけるワインとぶどう果汁の生産量は、過去7年に渡り、約4,000万hLの水準を安定して保っていたが、2013/2014年度の生産量は前年度比で1,400万hL増えて5,200万hLに達した。スペイン農業保障基金-FEGAの発表によると、2015/2016年度は、前期比で3.3パーセント生産量が減り、4,200万hLとなった。この4,200万hLの生産量のうち、3,720万hLがワイン醸造用、480万hLがぶどう果汁の生産用にむけられる。

スペイン国内で一番大きなワインの生産地のカスティーリャ=ラ・マンチャでは2,099万hLを生産する。その内、960万hLが赤ワインとロゼで、1,140万hLが白ワインである。

### スペインにおけるぶどう栽培

地理的位置関係、気候の違いや土壌の多様性が、イベリア半島や周辺の島々を、非常にバリエーション豊かなワインの産地とならしめている。スペインには17の地方自治州があるが、そのすべての地域でぶどう栽培が行われている。しかし、全体の約半分を占めるのがカスティーリャ=ラ・マンチャであり(473,331ha、ぶどう作付面積の49.5%)、世界有数のぶどう栽培面積を誇っている。次いでエストレマドゥーラ(約83,039ha、8.7%)、カスティーリャ=イ・レオン(64,473ha)、バレンシア(61,367ha)。この主要4地域に続くのが、カタルーニャ、ラ・リオハ、アラゴン、ガリシア、ムルシア、アンダルシアである。

ともあれ、減反政策が終了した後のスペインのぶどう栽培面積は安定している。スペイン農業・漁業・食糧省の2016年予想値は95万5,717haで、2015年は95万4,659haであった。つまり、1,058ha(+0.1%)のわずかながらも増加がみられた。栽培面積を最も増やしたのはアストゥリアスで、1haから3haへ増加し、それにエストレマドゥーラ(+3.3%)が続く。減少が顕著であったのはバレンシア(-2.1%)、アンダルシア(-4.6%)とムルシア(-3.3%)であった。

スペインには、原産地呼称保護(DOP)認定ワインを生産している地域が 90 あり、67 地域に原産地呼称(Denominación de Origen)、2 地域に特選原産地呼称(Denominación de Origen Calificada)、7 地域に地域名称付き高級ワイン(Vino de Calidad con Indicación Geográfica)、14 地域に単一ぶどう畑限定高級ワイン(Vino de Pago)がそれぞれ認められており、各地域でヨーロッパの基準に従った厳しい管理が行われている。(訳注:DO は69とありますが、そのうちの二つが DOC です。DO だけなら67、DOC を含んで69となります。)また、地理的表示保護(PGI)が認められたワインを生産する地域が 41 ある。

スペインで最初に原産地呼称が認められたのは 1932 年で、ヘレス(Jerez-Xérès-Sherry y Manzanilla-Sanlúcar de Barrameda)、マラガ(Málaga)、モンティエリヤ・モリレス(Montilla-Moriles)、リオハ(Rioja)、タラゴナ(Tarragona)、プリオラート(Priorato)、アレーリヤ(Alella)、ウティエル・レケーナ(Utiel-Requena)、バレンシア(Valencia)、アリカンテ(Alicante)、リベイロ(Ribeiro)、カリニエナ(Cariñena)、ペネデス(Penedés)、コンダード・デ・ウエルバ(Condado de Huelva)、バルデペーニャス(Valdepeñas)、ラ・マンチャ(La Mancha)、ナバーラ(Navarra) とルエダ(Rueda)であった。

Winesfromspain のサイトから、スペインの DO/ PGI マップをダウンロードすることができます。  
<http://www.foodswinesfromspain.com/spanishfoodwine/global/wine/all/index.html>

最新のデータによると、収穫されるぶどうのうち、51.1%が赤ワイン及びロゼワイン用で、48.9%が白ワイン用である。スペインで栽培される一般的なぶどう品種は、生産量の多い順から、アイレン(23.5%)、テンプラニーリョ(20.9%)、ボバル(7.5%)、ガルナチャ・ティンタ、モナストレル、パルディナ、マカベオ、パロミノである。この中で、赤ワイン用はテンプラニーリョ、ボバル、ガルナチャ・ティンタ、モナストレルで、残りは白ワイン用である。

スペイン国内のワイン消費量は気がかりな数値を示している。現在のところ、一人当たりの年間消費量は 20L を下回り、ヨーロッパ諸国の中でも下位に位置する。しかしながら、2016 年には消費動向に回復の兆しが認められた。

### **3. 産業の構造**

現在、スペインのワイン産業は、近代化とリノベーションの変換の重要な時期にある。2000 年以來、再転換がなされてきたぶどう栽培地の面積は 130,000 ha を超え、このための投資金額は 8 億€に及んでいる。スペインでは約 4,000 のワイナリーがスティルワイン、発泡性ワインやリキュールワインの生産に従事している。その大部分が小規模な、国内資本または家族経営で運営されるものであるが、一方では、かなりの数の農業協同組合が組織されている。

この業界の主要ワイナリーは、Freixenet、J. García Carrión、Codorníu、Arco Wine Invest Group、Grupo Domecq Bodegas、Grupo Miguel Torres S.A.、Félix Solís Avantis、Grupo Faustino の各社である。

産業構造としては、小規模ワイナリー及び協同組合と大企業が共存している。大企業は、製品の多様化を図るために様々な地方にワイナリーを所有している。生産の全過程で品質管理を徹底するため、自社用のぶどう畑を購入したり、作付面積を拡大したりするワイナリーもあるが、ワイナリーへの供給は、他のぶどう栽培農家からの買付けや、協同組合からワインの形で行われるという場合もある。また、より幅広い高品質ワインを生産するために、ワイナリーの新社、設備・施設の改良、熟成方法の技術開発のために多大な投資が行われてきたが、昨今の経済危機の影響を受け、投資レベルは低下した。その状況下でも、多くのワイナリーが、新しいぶどうの品種やその土地固有の品種を使って、試行錯誤を繰り返し、技術革新を行いながら、今の時代の消費者の好みにあったワインの生産を行っていることは注目すべき点である。

高品質ワインのワイナリー数をもっとも多いのは特選原産地呼称 DOCa リオハで(826)、続いて DO カバ(419)、DO リベラ・デル・ドウエロ(286)、DO ラ・マンチャ(256)、DO カタルーニャ(203)、DO ペネデス(187)、DO リアス・バイシャス(181)である。

ワイナリーの刷新に際し、世界的に著名な建築家に依頼して新ワイナリーの建設を行う動きも盛んで、例えばリオハのドメック(Domecq)、ボデガス・イシオス(Bodegas Ysios)はサンティアゴ・カラトラバ氏設計による。また、CVNE のワイナリーはフィリップ・マジエール氏設計、マルケス・デ・リスカル(Marqués de Riscal)はフランク・O・ゲイリー氏設計による。ザハ・ハディッド氏設計による R・ロペス・エレディア(R. López Heredia) の店舗や、ナバーラのボデガス・チビテ (Bodegas Chivite) のためにラファエル・モネオ氏が設計したセニョリオ・デ・アリンサノ (Señorío de Arínzano) がある。

ワイン業界は非常に活発な動きをみせている。市場集中度も高く、上位 5 社で市場の約 28%を占めている。外国資本の参入については、大手企業においてはそれほどでもないが、海外での販売力を高めるために、他国の同業他社とのジョイントベンチャーを行うことが増えている。同様に、激戦化する海外進出のプロセスに共同して取り組むため、マーケティングの専門家と提携するケースも増えている。

## 4. 輸出

### 世界の輸出状況

ワイン業界において貿易取引はますます重要度を増す。O.I.V.の統計によると、2001 年から 2005 年の 5 年間で、年間平均 7,220 万 hL であった取引量が、2016 年には 1 億 400 万 hL に増加した。数カ国の税関データを集計した GTA(Global Trade Atlas) の統計をもとにして世界の貿易取引額について見ると、2016 年の世界のワイン及びマストの貿易取引額は 287 億 9,200 万€に達している。O.I.V.は、すべての国の輸出の総量を世界市場として定義しており、それによると、前年よりも金額ベースで約 2%の伸びを記録したが、量ベースでは同期に 1.2%減って 1 億 400 万 hL となった。

同じく GTA の 2017 年のデータによると、スペインは数量ベースで、ワインとぶどう果汁の生産国として**世界第一位 (2,220 万 hL)の供給国**で、金額ベースで世界第三位 (27 億 240 万€)に位置する。海外での平均的なスペインワイン価格はリットル当たり 1.22€で、6.5%の増加である。しかしながら、そ

他の主要ワイン供給国の平均販売価格はリットル当り 2.89€であるので、スペインワインの価格はかなり低いといえる。

スペインに続く世界的なワインの供給国はイタリアで 2017 年に 2,130 万 hL を輸出している。しかしながら価格においてはフランスがいぜんとして第一位を占め、取引額 87 億 7,870 万€(+5.6%)、続いて大きく差をあげられたイタリアが 58 億 1,420 万€(+6.5%)で続く。量ベースではフランスは 1,450 万 hL で、スペインやイタリアと比較するとその差は大きく、したがって平均販売価格は両国にくらべて相当高いことを示す。2017 年にフランスから輸出されたワインのリットル当りの平均販売価格は 6.07€であり、世界的なワインの生産国トップ 12 の平均販売価格と比べて最も高い。フランスと輸出で競う、イタリア(2.73€/L)、スペイン(1.22€/L)と比較しても、その差は著しい。

イタリア、スペイン、フランスの3カ国を合計すると、2017 年のワインとぶどう果汁の輸出は、量ベースで世界総計の 55.7%、金額ベースで 57.6%を占めている。前年との比較での動向をみると、スペインは売上量を減らした (-5.8%)が、それでも販売量で世界第一位の地位を占めている。つまり、減量はあったが、平均販売価格の増加があったため、スペインワインの輸出売上高では増加したことが見て取れる。

一方イタリアは発泡性ワインの販売が大きく増えて輸出量を増やした。フランスも、昨年、シャンパンの貢献で売上高を 4 億 6,75 万€まで増やしている。

これらのヨーロッパの3大生産国に続き、チリとオーストラリアがそれぞれ第 4 位と第 5 位を量ベースでも金額ベースでも占める。米国は金額ベースで第 6 位を占めるが、南アフリカが廉価なワインを大量に売り上げて、量で第 6 位についた。

2017 年のチリのワインの輸出は、量において-0.7%の減量があったが、価格において平均販売価格が増加したことにより、4.8%のプラス成長をした。オーストラリアは 6,060 万 L 販売量を増やし、平均販売価格も約 5.6%増加させて、売上高を 2 億 620 万€増やした。米国は量ベースでも (-6.5%)、金額ベース(-2.7%)でも販売減少を記録した。

2017 年のドイツは金額ベース (-0.6%)、量ベース (-2.7%) とともに減少したが、平均販売価格に若干の増加がみられた。ニュージーランドはフランスに続く平均販売価格が高いグループに属する国であるが、前年比で金額ベース(+15.4%)、量ベース(+18.6%)の両方で売上を増加させている。

アルゼンチンは量ベースで減少(-3.8%)、金額ベースで増加(+5%)。南アフリカは量ベースで増加を記録し、平均販売価格も上昇させた。

まとめとして、スペインは 2017 年にバルク売りのワインの販売減少により輸出を減らしたが、平均販売価格が上昇しており、売上高としては増額を記録し、販売量では世界的主導権を維持している。

### スペインのワイン輸出状況－2017 年上半期

OEMV(スペインワイン市場諮問委員会)によると、2017 年前半のスペインのワインの輸出は量ベースで減少 (-0.7%) したが、金額ベースで 6%増加した。具体的な数値ではスペインは 11 億 1,570

万 リットルを 13 億 2,070 万 €で売り上げた。リットル当りの平均販売価格は 1.11€から 1.18€へあがった。スペインワインの輸出量の減少は、専ら表示のないバルク売りワインの減少によるもの。この減少はボトル詰原産地呼称保護(DOP)ワイン、地理的表示付きボトルワイン、微発泡ワインの伸びが良かったにも係わらず埋めることができなかった。

製品別では、リキュールワイン(シェリー等のワイン)は 2017 年上半期に販売額を約 17%(2,240 万 €)、数量ベースでは 18.1%(680 万 L) 減少させた。平均販売価格は上昇し、リットル当り 3.27€まで値上がりした。

2017 年 6 月までのスパークリングワインの輸出は量ベースで約 24.3%増加し (8.430 万 L) 、金額ベースでは約 10.5%(1 億 9, 360 万€) 伸びた。1 リットル当りの平均販売価格は 11.1%の減少で、2.30€となった。

2017 年上半期、スペインはボトル詰めスティルワインの輸出を約 4.8%伸ばし、8 億 1,810 万€を記録した。これはスペインの輸出総額の 61.9%をしめる。数量ベースでは増加量は 5.4%の成長で、3 億 9,720 万 L で、輸出総量の 35.6%という割合。1 リットル当りの平均金額は、わずかながらであるが-0.5%の減少となり 2.06€。

カテゴリー内では、原産地呼称保護(DOP)ワインがスペインの輸出の牽引役となり、金額ベースで 5 億 9,870 万€ (+ 3.3%)、数量ベースで 1 億 7,580 万 L (+0.5%)、リットル当りの平均販売価格は 3.40€となった。色で分けると赤ワインとロゼワインが、白ワインを大きく引き離してリードしている。ボトル詰のスティルワインの輸出先国としては、米国が第一位で、それにイギリス、そして成長著しいカナダが続く。また、中国、フランス、イタリアといった市場への売上也順調である。

ボトル詰めスティルワインの輸出は、すべての種類で金額ベース、数量ベース共に成長した。ワインの輸出にとって好調な時期となったこの 2017 年上半期、バルクワインの輸出は量的には減少を記録しながらも、総収益では成長を記録している。

繰り返しになるが、結論として、2017 年上半期のスペインワインの輸出は、数量ベースではわずかながら減少し 11 億 1,570 万 L となったが、金額ベースで好調な数字を記録し続け 13 億 2,000 万 €を記録した。平均販売価格は 6.7%増加している。前年同期と比べると、輸出量は 780 万 L 減少したが、7,500 万€以上、売上高を伸ばしたことになる。